



# SALVATIONIST

# とぎのこえ

2022年標語「わたしたちを救われる神」(詩編40編2～4節)



二〇二二年一月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

新春号

広報版  
2022

January-February  
No.2829

2022年 救世軍標語

「わたしたちを救われる神」

聖書箇所：詩編 40 編 2～4 節

ときのこえ SALVATIONIST

新春号 広報版

2022 January – February

NO.2829

もくじ

- **メッセージ**  
「わたしたちを救われる神」  
司令官 大佐 スティーブン・モーリス ..... 3
- **〔連載〕 聖潔の流れに立つ 第19回**  
ブレンゲルの生涯と聖潔  
中将 吉田 真 ..... 4
- **〔新コーナー〕 紙上救霊会**  
2022年救世軍テーマコーラス ..... 5
- **集会報告**  
召天者合同記念会  
書記長官によるキャンペーン〔長野分隊、高崎小隊開戦120周年記念聖別会、桐生小隊〕、人事・教育部長によるキャンペーン〔福山小隊開戦30周年記念聖別会、岡山小隊、名古屋小隊、静清小隊〕 ..... 6、7
- **各地のニュース!!**  
静清小隊、月島小隊、ゴスペルハウス、ブース記念病院、高知小隊、帯広小隊、救世軍公式YouTube ..... 8、9
- **YP（青少年部）・ファミリーニュース**  
神田小隊、福岡小隊、杉並小隊、前橋小隊、月島小隊、NewHope 麻布、しもべあ、山形へ ..... 10、11
- **〔新連載〕 各地の小隊から**  
八幡小隊 ..... 11
- **社会鍋による支援**  
福岡小隊、仙台小隊
- **災害対策室レポート、エンジェルツリー・プロジェクト** ..... 12
- **〈連載・第13回〉**  
神の呼びかけ～神の民となるために～  
(5) キリストの臨在を祝うことへの呼びかけ ..... 13
- **救世軍見解表明**  
社会道德に対する救世軍の立場  
第6回「現代奴隷制及び人身取引」(3) ..... 14
- **書記長官キャンペーンのアルバム**
- **ケアハウスいずみ・清瀬小隊**
- **救世軍公報** ..... 15
- **士官学校キャンペーン** ..... 16



2019年3月末来日以後、士官学校長として、また医療部長としてそれぞれ奉仕したゲイル・ホワイト少佐(写真右)とピーター・ホワイト少佐は、日本での奉仕を終え、2月22日に離日、母軍国のオーストラリアに帰国されます。海外士官の休養期間を経て、3月24日付で英国での新任命を受けられます。ご夫妻の日本における尊い御働きに感謝し、これからのご夫妻の御働きの上に神様の豊かな御祝福をお祈りいたします。

**オンライン 初野戦**  
**1月2日(日)午後2時**  
**救世軍公式 YouTube 配信**  
 司令官スティーブン・モーリス大佐のメッセージ、  
 ジャパン・スタッフ・バンド演奏 他  
 ※配信日を過ぎても、録画をご視聴いただけます



  
 @SAArmyJP

  
 SAArmy\_JP

  
 救世軍  
The Salvation Army

- きりとり -

『ときのこえ』購読を申し込みます。  
(1年分1140円。税込、送料別)

キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

表紙の写真：2021年10月28日  
(木)に本営前でおこなわれた手  
仕事マルシェのひとつ。

## 二〇二二年軍国標語

## 「わたしたちを救われる神」

司令官 大佐 ステイブ・モーリス



二〇二二年の軍国標語について祈りつつ思い巡らす中で、コロナ禍の影響が心に重くのしかかっていました。そして、神様の真実さはわたしたち個人個人に表されるものであると同時に、他の人々にも恵みと平和を伝えるよう働きかけるものであるという真理に思いが惹かれました。

人々がイエス様に出会い、その人生をイエス様に献げる姿を目にすることほど、感動を与えてくれるものはないと思います。この二年間にわたしたちが直面した困難は、誰も想定していませんでした。けれども、そのすべてを通して、神様は真実なお方であることをわたしは教えておられます。神様は今も御座におられ、すべてを治めておられます。礼拝に集まることができず、地域に向けての働きも難しくなりました。しかし神様は共におられ、その困難の中でもご自身を現し続けてくださっています。

わたしが強く惹かれた聖句は、詩編四〇編二、四節です。

主のみ、わたしは望みをおいていた。  
主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。  
滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ  
わたしの足を岩の上に立たせ  
しっかりと歩ませ

わたしの口に新しい歌を  
わたしたちの神への賛美を授けてくださった。  
人はこぞって主を仰ぎ見  
主を畏れ敬い、主に依り頼む。

一、この聖句はわたしたちに道筋を示してくれます。まずそれは苦悩の中で神様に叫ぶことから始まっています。わたしたちの声を神様は聞いてくださる。それは大きな慰めです。わたしたちを創造された神様はわたしたちのことをよく知っておられるので、祈りの言葉を発する前から心のうめきを聞き取ってください。この後続くことは容易ではないかもしれませんが。それは神様を忍耐強く待つ、ということ。けれどもそうした時に、叫びを聞いてくださる神様が、大きなことを成してくださるのです。

二、それは、わたしたちが置かれた状況がどんなものであれ、神様はそこから引き上げてくださるということです。自分にはその力が無くても、主の力に限界はありません。不可能な状況からわたしたちを救い上げ、岩の上に立たせてくださいます。

三、そして神様はわたしたちの心に新しい歌を与えてくださいます。苦しみの後に、わたしたちが待ち望むのはまさにこれです。新しい歌は、主の救いの恵みと救い出す主の力を思い起こさせてくれます。そのわたしたちの姿が、他の人々への証しとなり、神様の恵みは確実な支えであることに気づく機会となるのです。

このことを今年、日本軍国のために祈ります。イエス様の救いを証しし合う時、わたしたちの内に神様の真実さが明らかに示されることでしょう。主が真実であるように、わたしたちも真実でありたいと願うのです。

神様が与えてくださる「新しい歌」。救世軍歌集二七八番「いかに悩み苦しみあれど」おりがえしのフィル・レーガールの編曲が今年のテーマ・コーラスとなります。

軍国標語は「わたしたちを救われる神」です。

現代社会において、キリスト教のメッセージがどれほど伝わりにくいものであったとしても、神様ご自身は決して変わることがないという約束が、変わることはない神の力と恵み、そしてわたしたちは神の兵士であるというビジョンを思い起こさせてくださるよう祈ります。日本の救世軍全体がそのことに励ましをいただくことができますように。

神様がわたしたちを造られたのは、神様との関わりをもち、その救いの交わりに他の人々を導くためです。

わたしたちの祈りは、失われた魂が主の救いの恵みにあずかることであり、わたしたちがそれを喜び祝うこと、そして何より、自分自身の救いの喜びを証ししていくことです。救われた時のことをまるで昨日のことのように覚えて、神が昨日も今日も永遠に同じであることを深く意識する必要があります。

どうか神様がこの標語を用いて、日本において御国を前進させてくださるよう祈ります。他の教会とも協力し、より多くの人が御国の命にあずかることができるように。わたしたちの役割は、神様のために忠実に証言をすることです。そして神様が実を結ばせてくださることを期待しましょう。

イエス様から目を離して水に沈み始めたペトロに、イエス様は手を差し伸べられました。救い出すためにイエス様は手を伸ばしてください。どうかこの二〇二二年、この真理がわたしたちのイエス様との実体験となりますように。



連載 聖潔の流れに立つ 第十九回

ブレンダルの生涯と聖潔

中将 吉田 眞



リリーとの結婚

第十七回で述べたように、サムエル・ブレンダは、一八八五年の夏に初めてリリーに出会い、すっかり心を奪われてしまった。サムエルは彼女にプロポーズをしたが、見事に断られてしまった。そして一八八六年、リリーは、『Drum Taps』と題した、自叙伝風の書籍を書くための調査のためにロンドンに出発してしまつた。翌年、リリーがアメリカに帰国すると、ブレンダルのリリーに対する思いが変わらなかつたことを知り、ついにブレンダルの申し出を受けることになつた。

かくして二人は、一八八七年五月十九日、結婚式を挙げた。リリーの結婚サッシュ（飾り帯）には、「主に聖し」と書かれていた。二人の、神に対する、そしてお互いに対する思いの基礎となるべき考え方がここに示されている。二日の後、ブレンダは士官学校入校のため、ロンドンへ出発した。

候補生としての訓練

一八八七年六月一日、万国本営に到着し、創立者と会見した。創立者はブレンダを、「危険な階層」（教育を受けた高貴な人たちの階層）と判断し、候補生として受け入れることを躊躇したが、「天国への道は、最も低いところに居る人たちのところに行くことにある」

とブレンダは答え、自分の決意を表明した。その結果、ブラムエルとの会見の後、試用期間として、しばらく訓練を受けることとなった。

最初の訓練

ブレンダに与えられた最初の任務は、魂の救いの働きではなく、他の候補生のブーツ（靴）を磨くことであつた。自分には、小さすぎる任務だと感じ、祈つた。

「主よ、わたしは、賜物を土に埋めているのでしょうか？ これが、救世軍がわたしを最もよく用いる道なのでしょいか？」

そのような心の動きの中で彼は一つの幻を見た。それは、キリストが、弟子たちの足を洗う姿であつた。神の子が、洗練されていない、無学な漁師たちの足を、奴隷のようになつて洗っている。「主よ、あなたは弟子たちの足を洗われました。わたしも、ここにあるブーツを磨きます」と、最初の訓練を受け入れることができた。

彼の証言に耳を傾けてみよう。

「イエス様は、へりくだつた心をもつておられた。十字架につけられる直前、彼は奴隷の立場をとり、弟子たちの足を洗われた。そして言われた。『わたしは模範を示した。あなたがたも同じようにしなさい。』この言葉は、士官学校において、わたしの大きな助けとなつた。訓練の二日目、わたしは、他の候補生の靴を磨くように言いつけられた。悪魔が語りかけた。『ほんの数年前、おまえは、大学を卒業し、著名な神学校で学び、大きな伝道集会で語り、たくさんの回心者を得、大きな教会で牧会をしていた。それなのに今お前は、あの無知な若者たちの靴を磨いている。』わたしは主の模範を語つた。悪魔は去つて行つた。あんな小さな地下の部屋は、天国への待合室へと変えられ、主ご自身がそこにおいでになつた。」

一八八七年十二月、ブレンダは大尉となつて、ア

メリカへ帰国した。

その年の十二月から一八八九年九月までの間に、三つの小隊の任命を受けた。最初はトントン小隊で、五カ月奉仕したが、この間にリリーは病を得てアメリカに移つた。二番目はサウス・マンチェスター小隊で三週間。そしてダンベリー小隊では三カ月奉仕した。最も困難な任命であつた。この間も、常に、ブレンダルのメッセージの中心は、聖潔であつた。そして、その結果多くの兵士たちが聖潔の恵みを受けた。

一八八九年一月、ボストン小隊へ転任。ここでブレンダは十字架の道を歩むことへの挑戦を経験した。一つは、小隊と士官宅とが、墮落した地区にあつたこと。もっと大きな挑戦は、この町には、かつての先生や、仲間たちが住んでいたことであり、彼らは、ブレンダは失敗者である、との見方をしていたことである。事実、後に、ブレンダは、「神学校時代の教師たちが、わたしに話しかけてくれなくなつた」と、述懐している。

身体的挑戦を受けたのもこの頃である。暴漢の投げたレンガによって負傷し、生死の境をさまよつた。十八カ月の休養を必要とした。しかし、この間に彼の有名な著作『聖潔の架』を執筆した。これは、最初は『ときのことえ』のためであり、聖潔の恵みについて十八カ月の間連載された。後に、一八九六年に、書籍の形を取つて出版された。「もしあのレンガがなかったら、この本はなかった」とブレンダは言う。リリーは、そのレンガを保存し、そこにこう記した。「あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださつたのです。」（創世記50・20）

しかし、この時期にリリーは鬱病となり十八カ月の休養をとることになつた。

（続く）



〈新コーナー〉

## 紙上救霊会

あなたはいま幸せですか？ はい、と言うことができたなら本当に幸せだと思います。しかし、ためらわせるものが心にあると、なかなかそうも言えません。

ためらわせるものは何でしょうか？ それは、自分は失敗、<sup>あやま</sup>過ち、罪を犯してしまったという自責の念であるかもしれません。罪責感とも言います。夢中で生きているときは気づかなかつたのに、何かの拍子で罪責感が心の底から姿を現すこともあります。

体の外に付いた汚れなら、お風呂に入って落とすことができます。しかし、心の中はそうもいきません。どうすることもできずに罪責感を抱えて生きることになります。

では、死んだら罪責感は消えるのでしょうか？ それについては誰も死んだ経験がないのでわかりませんが、聖書は「人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっている」（ヘブライ9・27）と警告しています。罪責感を抱えたまま生きることは、幸せでないばかりかリスクでもあるのです。

しかし、この聖書の言葉には続きがあります。それはまさにグッドニュース・良い知らせ・福音です。

「キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。」（ヘブライ9・28）

この聖書の言葉が意味することは2つあります。

第一にイエスは「多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた」のです。

これは、あなたの失敗、過ち、罪の責任をイエスが身代わりに引き受けて十字架にかかってくださった、という意味です。ですから神は、イエスの十字架のゆえにあなたを救ってくださいます。聖書に「もはや彼らの罪を思い出しはしない」（ヘブライ8・12）と言われているとおりです。あなたは罪を赦され、罪責感から解放されることができるようです。

第二にイエスは「御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。」

十字架につけられたイエスは3日目に復活されました。人間は死んで終わりではないこと、復活の命があること、永遠に続く世界があることを、イエスは復活の身をもって示してくださいました。ここに、わたしたちの希望があります。



コロナ影響下でも工夫して賛美し福音を伝える。天満小隊バンドはラッパにカバーをかけ、玄関ホールで演奏。足を止め聞いてくださる方もあった。（昨年3月）

では、どうしたら罪の赦しと復活の命にあずかることができるのでしょうか？

そのために必要なことは「悔い改め」と「信仰」です。まず、罪責感の原因となっている自分の罪を認めることです。そして、それから離れたいと願う、それが「悔い改め」です。

その上で、イエスが十字架にかけられ復活したのは、この自分を救うためだったと認める必要があります。それが「信仰」です。この信仰によってどんな人でも救われることを、聖書は次のように約束しています。

「口でイエスは主であると公に<sup>おおやけ</sup>言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。」（ローマ10・9）

キリスト教会には「悔い改め」と「信仰」をひとつに合わせた短い祈りが古くから伝えられています。次のような祈りです。ぜひこの祈りをあなたの祈りとして祈ってみてください。あなたは救われます。

**主イエス・キリスト、神の子、救い主、  
罪人であるわたしを憐れんでください。**

新コーナー：救世軍の様々な集会のなかで、救いのメッセージが集中的に語られるのが「救霊会」です。現在はコロナの影響もあり集会開催もままならない中ですが、司令官のメッセージにもあるとおり、人々がイエスに出会い救われることは、どんな時も変わらないわたしたちの祈りです。そこで今年、<sup>あかし</sup>「紙上救霊会」として、救いのメッセージと証言を掲載します。恵みを分かち合い、伝道に用いられれば幸いです。皆様の救いの証言をお待ちしています。編集部までお寄せください。

### 2022年救世軍テーマコーラス

「わたしたちを救われる神」（詩編40編2～4節）

われ主の手にあり  
わが未来は主の手に  
わがため主はそなえたもう  
すべてゆだねん みむねに

I'm in his hands (詞：STANLEY E. DITMER 訳：救世軍歌集278番おりかえし)、NTB659 His way is best (曲：PHIL LAEGER)

集  
会  
報  
告

## 召天者合同記念会

2021年10月9日(土)午後2時 オンライン配信

書記長官西村保大佐補及び軍国女性部書記西村和江少佐による  
キャンペーン2021年10月10日(日)長野分隊、24日(日)高崎小隊  
11月14日(日)桐生小隊

## ●召天者合同記念会

昨年同様、事前撮影のオンライン配信でおこなわれました。撮影は10月2日(土)におこなわれ、社会福祉部長石川一由紀少佐の司会で進められました。財務管理部長寺澤勇少佐が昨年10月以降の召天者名簿を朗読し、ジャパン・スタッフ・バンドの演奏。軍国女性部書記西村和江少佐が代表で献花。一同で黙祷を献げ、先に天に帰られた方々を偲びました。書記長官西村保大佐補は「わたしたちに勝利を賜る神」と題してコリントの信徒への手紙一15章50～58節より、再臨の主の御前に立つときを思い、この苦しみの多い時代にも、信仰の先達に倣い、イエスを仰ぎ見て歩み励んでいこう、と御言葉を取り次ぎました。最後に遺族代表として、2021年4月に召天された小西政子兵士のご遺族、飯田忠男兵士(月島小隊)が挨拶をしました。

撮影日には、救世軍人墓所、社会福祉部墓所でも献花



(写真左上より)

- ・晴天のもと執りおこなわれた記念会。司会の石川少佐
- ・召天者名簿朗読 寺澤少佐
- ・代表献花、黙祷の時
- ・メッセージする書記長官
- ・飯田忠男兵士による挨拶

をし、祈りを献げました。また、同日午後2時～4時30分には、各納骨堂の扉を開き、ご家族が墓参されました。なお、青山霊園立山墓地での集会は中止しました。

(動画再生回数134回<12月9日現在>)

## ●書記長官キャンペーン ※写真は15ページにあります

## 長野分隊

10月10日(日)午前11時よりおこなわれました。関東東北連隊長藤井健次大佐補が司会し、宮下弘子ピアニストの奏楽で開会しました。開会祈禱を司会者が献げ、書記長官及び軍国女性部書記の歓迎・紹介をしました。対面での集会を喜びつつ、テーマソングを賛美し、軍国女性部書記の証言、小林雄一兄のギター演奏、中島加代子書記が感謝の祈りを献げ、山岸益子文書軍曹が聖書朗読をしました。書記長官は、「主があなたがたのうちに不思議を行われる」(ヘブライ12・14～17、25～29)と題して説教をし、恵の座が開かれました。(会衆12人、恵の座3人)この日は、折しも、1998年に献堂式がおこなわれた日で、神様のお導きに感謝をしました。出陣者を見送った後、有志5人で珈琲館「珈香」の久保田富夫、美恵子さんのご自宅を訪問し、ご夫妻の健康回復とお孫さん誕生の祝福のお祈りをすることができました。

## 高崎小隊

## 開戦120周年記念聖別会

10月24日(日)、高崎小隊開戦120周年記念聖別会を、書記長官及び軍国女性部書記を迎えておこないました。集会前の奏楽「たてよいざたて」には高崎小隊タンバリンシスターズによるタンバリン操練が華を添え、聖別会は戸澤久会計の司会で進められました。久保田尚勝

書記が祈禱を献げ、連隊長藤井健次大佐補がゲストを紹介しました。横山祐次曹長からの歓迎の言葉、戦友一同によるウクレレ伴奏による賛美の後、書記長官は「愛にしっかり立つ者」(エフェソ3・14～21)と題してメッセージを語り、その中で、開戦小隊長山崎珊松大尉、ませ子大尉夫人の足跡から、今を形造る先達たちの熱い信仰こそが高崎小隊の歩みそのものであり、私たち自身も聖潔を受けて日々を歩み、神の働きをおこなうものになりたい、と語りました。(会衆22人)

## 桐生小隊

11月14日(日)社会福祉サンデーに、書記長官及び軍国女性部書記を迎えて特別聖別会を守りました。連隊女性部書記藤井千明大佐補の司会のもとに、大里忠弘書記の歓迎の言葉、連隊長によるゲストの紹介に続き書記長官が挨拶をしました。軍国女性部書記は、社会福祉サンデーにちなんで、自分の今までの任命の中から、乳幼児から高齢の方々への関わりが、すべて繋がっていることを証しました。最後に、書記長官は、「古い人をその行いと共に脱ぎ捨て」(コロサイ3・12～17)と題して、私たちの献げ物や奉仕が純粋な動機を伴うものでなければならぬと語り、聖潔の信仰について解き明かしました。(会衆14人、恵の座2人)

聖別会后、11月の誕生者会では誕生者の西川真人兵士をお祝いしました。なお、当日はオンラインで熊谷小隊と共に集会を守りました。

# 集会 報告

## 人事・教育部長添田美和少佐による キャンペーン

2021年10月23日(土) 福山小隊、24日(日) 岡山小隊  
11月7日(日) 名古屋小隊、14日(日) 静岡小隊

### 福山小隊

#### 開戦30周年記念聖別会

10月23日(土)、残暑が過ぎ急に寒くなってきたこの日に、福山小隊開戦30周年記念集會を人事・教育部長添田美和少佐によるキャンペーンに併せて開催しました。コロナ禍で広く宣伝をしての集會はできず、東京、大阪、福山をインターネットでつないでの集會となりました。司會は石坂奈緒美少佐。『救世軍歌集』166番を導き、祈りを献げました。西日本連隊長鈴木智博大尉が挨拶し、小隊30年間の歩みのスライドショーを見ました。添田少佐はペトロの手紙一から「生きた言葉によって新たに」と題してメッセージをしました。

集會後には東京、大阪と画面越しでの交流の時をもちました。元小隊長の添田少佐が指揮した集會でしたので久しぶりに参加した戦友もありました。(会衆15人)



### 岡山小隊

10月24日(日)、今回はコロナ禍ということもあって東京、大阪、岡山をインターネットでつないでの聖別会となりました。石坂奈緒美少佐の司會で進められ、『救世軍歌集』153番を賛美し祈りを献げました。添田少佐の挨拶に続いて、連隊長が大阪から挨拶をしました。添田少佐は詩編103編から「救し、癒し、あがない、満たす方」と題してメッセージ。終了後には画面越しの交流の時をもちました。(会衆16人)



### 名古屋小隊

11月7日(日)晴天の中、戦友13人が集いました。2020年冬にコロナ感染が始まって以来の人数。この日はこれまでの自動演奏ではなく、中川友子オルガニストによるぬくもりに満ちた奏樂によって賛美。「神のたまよきたりつどえ」「この世のいざない」の2曲を喜びをもって歌いました。また上原奈津代兵士が証言。石田和義兵士による力強い聖書朗読の後、添田少佐が「愛する者を鍛える主」と題して説教。慰めと励ましのメッセージを受け取り、また対面での再会を心から感謝し合いました。聖別会後、短いお茶会を開き、近況などを親しく語り合いました。それぞれがこの日のことを覚えて集ったことに心から感謝する時でした。(会衆13人、お茶会9人)



### 静岡小隊

11月14日(日)、人事・教育部長の東海地区キャンペーンとして、聖別会が開かれました。元小隊長の出陣であり、また、やはり、元小隊長の東京東海連隊長石川和男少佐、節子少佐も随行したため、しばらく小隊

に来ることができなかった戦友方も集い、恵みの時となりました。

プログラムでは、井出みや子會計が、今まで導かれてきた自身の信仰について証しました。社会福祉サウンデーということもあり、添田少佐は、「良きサマリア人」のたとえから、「まごごろから愛を行おう」と題して、説教しました。(会衆21人)

# NEWS!! NEWS!!

## 各地のニュース!!

### 静清小隊

#### ●召天者合同記念聖別会

静清は、沼津・静岡・清水の三つの小隊が合併した小隊です。この三つの小隊に任命を受けていた鈴木雅子少佐を迎えて、10月17日(日)、召天者合同記念聖別会を開きました。去年は、コロナ禍で開くことができませんでした。今年も、感染対策等を考慮して、外部の会場(あいネットホール江尻台)を借りました。



前回(2019年)の記念会からこの日までに、7人の戦友、軍友の方々が召天されました。そのご遺族の皆様も出席されました。沼津、静岡、清水の戦友、ご遺族、ご家族はじめ、大阪や大分からも出席者があり、信仰の先輩方を覚えるとともに、自らの信仰を省みる時をもちました。(会衆31人)

### 月島小隊

#### ●召天者合同記念聖別会

10月24日(日)におこないました。月島小隊及び自助館に関わり、先に天に召された兄弟姉妹のお名前を読み上げ、御国にある方々を偲びました。平本祐子大尉がヨハネによる福音書14章1～6節より説教しました。(会衆20人)



#### ●連隊長出陣聖別会

11月28日(日)、第一アドベントの聖別会は東京東海道連隊長石川和男少佐、節子少佐出陣でした。プログラムの中で、石川節子少佐が紙芝居を読んで子どもメッセージをし、小隊に属する子どもたちのために祝福のお祈りをしました。(写真は10ページ) 連隊長はヨハネ

の黙示録3章14～22節より説教し、クリスマスを待ち望む心の在り方を示しました。またこの日は、80歳を迎える戦友のお祝いもし、喜びの聖日となりました。

### ゴスペルハウス

#### ●手仕事マルシェ

10月28日(木)午前11時～午後3時、本営玄関前で開催しました。全国の戦友方からこのために200点近くの手芸品が寄せられました。

当日は好天に恵まれ、様々な手芸品を『ときのこえ』や御言葉カードと共に、立ち寄られた方々へお渡しすることができ、良い伝道の機会ともなりました。収益は本営の一般資金に繰り入れられた上で、小隊への財政的な支援に役立てられます。

皆様のお祈りとご協力に心から感謝申し上げます。来春以降、第2回目もできれば、と計画しています。



御言葉カード付の手作り手芸品の数々。多くの方が立ち止まって手に取っていました。



## ブース記念病院

### ●永年勤続表彰

11月8日(月)、ブース記念病院創立105周年記念として永年勤続表彰がおこなわれました。勤続5年から25年まで44人へ、お一人おひとりに感謝状を医療部長ピーター・ホワイト少佐より贈呈しました。また、医療部長から職員へ、感謝とともに、「これからもブース病院のために働いてほしい」と奨励がなされました。



(写真前列左から4人目) 医療部長ピーター・ホワイト少佐より、永年勤続表彰として感謝状を受けられた、職員の皆さん

## 高知小隊

### ●野外礼拝

10月3日(日)、山北みかんの産地のみかん畑ベンチに腰かけ、澄み切った秋晴れの空の下、野外礼拝を守りました。コロナ禍が続く中、自然豊かな高知では、三密やソーシャルディスタンスの煩わしさから解放され、時折、野外



礼拝を守ってきています。この日、士官志願者サンデーにあたり、士官志願者と祈りのパートナー渋谷小隊を覚えて祈り、加茂あづさ大尉のメッセージ「祝福と笑顔」のテーマにそって全員が証しました。



礼拝後、みかん畑を安井晃軍旗軍曹の案内で回り、地元の味覚を味わう「そばランチ」で敬老のお祝いをして交わりを深めました。道中、かつて高知小隊結婚式事業や特別集会で賛美のご協力をしてくださっていた保木ふみ姉のお宅を訪ね、懐かしい再会の恵みを与えられ、文字どおり「祝福と笑顔」の絶えない野外デーとなりました。

このキッズバザーを神様が用いてくださっていることを感謝します。

## 帯広小隊

### ●キッズバザー

11月3日(祝・水)、小隊会館を会場に、キッズバザーを開催しました。今年の春に改修工事をして、新しくなった会館を地域の方々にお披露目する意味も含めて、さらに地域に開かれた小隊となることを目的としておこないました。



子どもたちに好評だったキッズコーナー

当日はあいにくの雨でしたが、口コミだけで約60の方が集われました。「ママゴスペル」やパン教室、「子育てママの会」のメンバーを中心に声かけをしていましたが、それぞれのメンバーが友達を誘って、初めて小隊に来た方も10人以上おられました。子どもたちには、スタンプラリーやヨーヨー釣り、お菓子すくいなどキッズコーナーが好評で、夢中になって楽しんでいました。

バザーに来られた方が、その後、「ママゴスペル」の練習に初めて参加されたり、コロナ以降小隊で集まっていなかった「子育てママの会」が、バザー後再開したりと、



たくさん子ども用品が寄せられました

このキッズバザーを神様が用いてくださっていることを感謝します。

## 救世軍公式 YouTube

チャンネル登録者数が昨年12月7日に1000人を超えました！感謝いたします。現在、毎週火曜に音楽プログラムの動画、毎週金曜にメッセージ動画を配信しています。今後もこのチャンネルがイエス・キリストの福音を伝えるため豊かに用いられるようお祈りください。

日曜学校教師奨励サンデー  
2月13日

子どもたちの信仰のため働く先生を覚えて祈りましょう

2021年感謝祭募金結果  
11,811,197円

2021年秋におこなわれた感謝祭の募金活動にご協力いただきありがとうございます。日本国内の救世軍の活動を支える尊いご支援を心から感謝いたします。(2021年12月9日現在)

# YP (青少年部) · ファミリーニュース

## 神田小隊

### ●森柏寿会書記の活躍

森昭七柏寿会書記(89歳)は、第12回マスターズトラック記録会85歳以上の部100m走で見事に1位になりました。小隊では長年、募金活動に携わり、太極拳教室の指導もしています。コロナが終息し、再開できることを祈りつつ待っています。



### ●書記長官出陣聖別会、子どもの祝福

11月7日(日)の聖別会は、書記長官西村保大佐補と軍国女性部書記西村和江少佐を迎えておこなわれました。子ども祝福のお祈りの時をもちました。



## 杉並小隊

### ●子どもの祝福

11月14日(日)聖別会の席上でおこなわれました。杉並小隊に連なる子どもたちの成長のために、祝福を祈りました。



子どもたち、おめでとう！  
神さまのお恵みと守りのなかに、  
大きくなってね！

## 福岡小隊

### ●家庭団例会

10月17日(日)午後、久しぶりの例会をおこないました。第一部の礼拝は、齋藤敏子少佐から御言葉の勧めをいただき、第二部は、講師に三澤希実佳ジュニアソルジャーを迎えて、UVレジンで十字架ストラップ作りに挑戦しました。(出席者7人)



## 前橋小隊

### ●子どもの祝福

11月21日(日)聖別会席上で、子ども祝福の時をもち、日曜学校の子どものために小隊士官・田口哲也少佐が祝福の祈りを献げました。子どもたちは記念にアドベントのお菓子を受け取りました。



## 月島小隊

### ●子どもの祝福 (記事は8ページ)



## NewHope 麻布

New Hope 麻布は緊急事態宣言中は活動を休止していましたが、昨年10月からすべてのプログラムを再開しました。子どもたちにクラブを教える「ミニキッズアートクラブ」、キャンバスにアクリル絵の具で楽しく絵を描く「キッズペイントクラブ」、鈴木瑠花さんがキッズとママにヒップホップダンスを教える「ダンス教室」、月一回土曜の夜に大人を対象とした「ペイントナイト」、そのほか日本語教室も開催しています。月2回火曜には、女性部の協力でカフェがおこなわれ、「手芸クラブ」やフェアトレード商品「アザーズ」のミニバザーも開催しています。利用者の中から救世軍の小隊の礼拝に行ってみようという方々も生まれつつあります。ぜひお祈りください。



## しもべあ、山形へ

### ●ペーくん、ラブソナタに出張

10月27日(水)の「ゴスペルナイト」(若者向け)、28日(木)「ラブソナタ」(超教派の伝道集会)本大会で、会場のロビーに設置されたCGNTVのブースで、来場者を歓迎しました。「しもべあの大冒険」のペーくんが会場にいることに驚いている視聴者の方や、興味をもって広報スタッフの説明を聞く方もいました。子どもたちは、最初は少し怖がる子もいましたが、しゃがんで声をかけると喜んで握手をし、話しかけてくれました。集会の終了と同時に、来場者とブース付近で交流をもつことができ、この子ども番組宣伝とともに、



救世軍についても知ってもらう良い機会となりました。

現在、青少年部が力を入れている子ども番組を、東京にとどまらず、地方でも宣伝する時となり、感謝でした。

(青少年部報)

## 新連載 各地の小隊から

### 八幡小隊



小隊は九州の北の玄関口にある北九州市八幡東区にあります。北九州市は、町中からも周りの山山が見え、自然災害も少なく、落ち着いた、住みやすい町です。かつては八幡製鉄所を中心に九州工業地帯の要として発展し、政令都市として活気のある時代もありましたが、現在は、産業構造の転換などによって人口流

出による人口減少や住民の高齢化が課題になっています。

小隊の働きが始まったのは、1915(大正4)年、今年で106年の歴史を刻んでいます。その間に、1982(昭和57)年、98年の歴史をもつ門司小隊と合併しました。現在の会館は、1985(昭和60)年に移転新築されました。

今年は、11月14日に召天者合同記念会をおこないました。記念されている約90人の召天者の名前の朗読の間、スクリーンには思い出の写真が映し出されました。長い歴史の中で、この小隊の働きにより、大勢の方がキリストに出会い、魂の救いを得て良い人生を送り、天に召されたことを思い、そこに変わらない神の御業と恵みが現されていることを確認しました。信仰が各家庭に継承されていくことを祈りました。

昨年より、コロナ禍にあり、外に向けての働きが制限され、集会をもてない時期もありましたが、その間もインターネットを用いて、聖書のメッセージを発信し続けることができました。青少年に対する活動も、近所の子どもたちに、英会話を教えることを通して、イエス様を伝える機会を得ています。



納骨堂前で墓前礼拝後に



↑召天者合同記念会の様子



スジュニアイングリッシュでは、トーンチャイムの練習も

新連載 日本各地の救世軍の小隊はその土地の風土もあり、特色があります。救世軍に属する戦友同士が互いを覚え、祈り合う小さなきっかけになればとの願いをもって、新しい連載をいたします。



## 社会鍋による支援

### 福岡小隊

#### ●街頭給食及び衣料品・日用品配布

11月15日(月)、街頭給食及び冬物衣料品・日用品の提供をしました。

小隊と天神地区で、街頭生活者の

皆さんに50食を提供しました。コロナ禍にあって、給食と衣料品の提供は、たいへん喜ばれました。



## 仙台小隊

### ●留学生食料支援

11月30日(火)、仙台YMCA国際ホテル製菓専門学校に在籍する留学生に対して食糧支援をおこないました。新型コロナウイルスの影響を受け、留学生は日々の生活維持のためのアルバイトが少なくなっているとのことです。また、コロナ禍がホテル観光業界、飲食業界に与えている影響は大きく、現在もなかなか内定を獲得することが難しい状況が続いています。このような状況にある学生たちに対しておこなわれた「留学生食糧支援プログラム」に、お米やパスタなどを提供させていただきました。

今年の仙台YMCAのクリスマスの中で留学生たちにプレゼントされるとのことで、感謝の言葉をいただきました。



## 災害対策室レポート

### ■蓄電池とソーラーパネルの配備

昨年半ば頃より、本営、各連隊本部、数カ所の小隊・施設への災害対策備品の整備について準備を進めてきましたが、昨年10月末に、まずは、蓄電池(Jackeryポータブル電源1500)とソーラーパネル(Jackeryソーラーパネル200)の整備を実施しました。この蓄電池は、家庭用のコンセントに差込プラグを接続し充電することができ、屋内での使用もできます。シガーソケット対応の接続プラグによって乗用車から充電することも可能です。ソーラーパネルでの充電はフル充電まで、天候にもよりますが15時間程度を要します。当初、計画にあった発電機についてはメンテナンスやオペレーションについて、現状での整備が難しいと判断し、見送っています。

災害はいつ起こるかわかりません。緊急時に対応することができるよう、今後も体制を整えていきたいと考えています。



本営の窓際に置かれた蓄電池とソーラーパネル

## エンジェルツリー・プロジェクト

### ●東京アメリカンクラブ訪問

子どもたちにクリスマスプレゼントを贈るプロジェクト「エンジェルツリー」の広報活動のため、本営のファンディング担当花崎職員と他数名で東京アメリカンクラブを訪問しました。11月6日(土)は「しもべあの大冒険」のペーくんも参加し、クラブ内のファミリー向けレストランで、7日(日)と8日(月)は、毎年この時期におこなわれているインターナショナルバザーの会場で広報活動をしました。

どちらの会場でも多くの方々が来てくださり、子どもたちのリクエストが書かれているタグを選んでいただきました。寄付をしてくださる方々と直接お話しすることができ、良い時間となりました。アメリカンクラブの皆様のご支援に心から感謝いたします。



## 〈連載・第13回〉

## 神の呼びかけ ～神の民となるために～

## (5) キリストの臨在を祝うことへの呼びかけ

(承前) ウイリアム・ブースは、メソジストの聖職者として叙任された後、聖餐式を実践しており、救世軍の指揮を執るようになってからも、聖餐式にあずかる人が受ける霊的な恩恵を否定しないように常に気を配っていました。オーストラリアにおいて救世軍が活動を始めて間もない頃、メルボルンでおこなわれた救世軍の士官会で次のように述べています。「わたしは、聖餐式を低く評価するような会話を夕食の席で交わしたり、そのような言葉を口にすることは決してしない。」けれども、聖餐式が救いに不可欠であると示唆する人々(少数ではありませんでした)に対しては、このように言っています。「それがあなたの自由を妨げないようにしなさい。」

この自由こそ、委員会が目指したいことなのです。神の民が、主の死とその臨在を思い起こすには、数多くの方法があります。

使徒パウロの働きを中心にあつたのは、十字架の説き明かして(コリント1・23)。これは常に救世軍の営みと礼拝の中心でなければなりません。このことを強調するために、何か特定の要素を用いる必要はありませんが、わたしたちの理解を助けるために様々な方法を神は用いてくださることでしょう。

ですから委員会は救世軍人に、「イエスとその友たち、また初期のキリスト教徒たちが分かち合った簡素な食事の意義を、わたしたちもお互いの人生を共にする中で、探求する機会を得ていくように」と呼びかけます。「探求する」「機会」「得ていく」というキーワードは、初期の救世軍でよく用いられていました。信仰がムーブメントにとって新たな冒険であり、世間の注目を集めるほどに神が多く扉を開かれていた頃です。

英国国教会の教理委員会の元委員長であるジョン・オースティン・ベイカー主教(博士)が来訪した際、委員会のメンバーに対して言った言葉は、救世軍には探求するための輝かしい自由があるということでした。それがどれほどの恵みであるかを理解してほしいと言ったのでした。救世軍は特定の礼拝形式や言葉に縛られることなく、また儀式をむやみに重要視することはありませんでした。他の教会と同じようになるために聖餐式を導入することに対して、主教は反対したのです。

委員会がこの点を検討すればするほど、探求性と自由さをもつ特権が、今日の救世軍で必ずしも最高の効果に結びついていないことが感じられました。多くの救世軍人はすっかり落ち着き、ありきたりになり、神が与えてくださったその自由の中で、どんな新しいことをしてくだ

さるのか、見ようとさえしないことが起きています。

一部の救世軍人は、救世軍は反聖礼典であるという誤った見解をもち、他のキリスト教徒がそのような形式の礼拝に霊的な恩恵を見いだすことや、救世軍人が超教派の集まりにおいて招きに応じることに反対してきました。この見解は修正されなければなりません。

信仰者たちが集まる中では、キリストの臨在を当たり前のこととして、ぞんざいに捉えてしまう可能性が大いにあります。残念なことに、キリストの贖いの犠牲の素晴らしさが、心に深く感じ入ることではなく、耳慣れた情報のひとつとなってしまうのです。食事の席や集会の中で、キリストの本物の臨在を祝う方法を再考するように委員会が呼びかけているのは、キリストの犠牲の死という歴史上最も無私無欲の出来事が、救世軍と救世軍に連なる人々の中心にしっかりと据えられていることを確かなものとするためなのです。そのために委員会では、交わりの食事の場をさらに広げるよう提案しただけでなく、そのような共有の場をもつための方法をリストに挙げました。考え方や表現の仕方に自由の余地を残すことを委員会では留意し、41 ページのリスト(後出)はそれを反映したものとなっています。

メルボルンでの説教で、ウイリアム・ブースは、救世軍が聖餐式をおこなわないことを批判している人々に語っています。その際に、初期の救世軍の兵士たちが経験しているところを明らかにしました。彼らが主とどのような関係性をもっていたのか、その実際の様子から示したのです。

「救世軍の小隊を考えてみてください。想像してください。まず7時にひざまずいて祈りの時をもちます。イエス様と過ごします。そして言うのです。『ああイエス様、あなたの血潮がわたしたちを清めてくださいます。聖霊が今日もわたしたちを助けてくださいます。』そして、10時になると野戦に行きます。その後小隊に戻り、聖別会をもちます。午後にはまた外へ戦いに出ます。夜の集会でも奮闘します。丸一日、そのような訴えと奮闘と、聖めの血潮を求めながら過ごした後に、もしわたしが彼らを集めて、『イエス・キリストを覚える助けとなるように、来て、これを受け取りなさい』と言ったなら、兵士たちは言うでしょう。『おかしいですね。イエス様はわたしたちの心の中におられますよ。』」

(続く)

## 2月・スチュワードシップ月間

「管理者に要求されるのは忠実であることです。」

(コリントの信徒への手紙— 4章2節)

兵士献身サンデー  
2月6日

## 救世軍見解表明

### 社会道德に対する救世軍の立場 第6回「現代奴隷制 及び人身取引」(3)

(承前) 聖書は不正について強調します。どんな人も悪用されたり、傷つけられたりしてはなりません。クリスチャンは、現在の壊れた、罪深い世界の状態が、決定的なものではないと信じています。人間を造られた神は、だれ一人として失われることがないことを望んでおられます。

イエスは、すべての人が豊かな人生を送ることができるためにこの世に来られました(ヨハネ10:10)。イエスは言われました。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」(ルカ4:18、19) この時、イエスは、イザヤ書61章1、2節を引用していました。イザヤ書61章には、「主なるわたしは正義を愛し、献げ物の強奪を憎む」(8節)とあります。ミカ書6章8節は、「人よ、何が善であり 主が何を前にお求めておられるかは お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し へりくだって神と共に歩むこと、これである」と記しています。自分を愛するように隣人を愛するべきです(マタイ22:39、レビ19:18)。

このように、クリスチャンには、あらゆる形態の奴隷制及び人身取引の撤廃を目指して取り組むことが求められているのです。

#### 実際的な対応

救世軍はその創立時より、個人またはなんらかの集団が他者によって虐待されるという、世界的に見られる現象を減らすことを目指してきました。

現代奴隷制及び人身取引問題に対する認識が高まる中で、救世軍は世界中でこの悪との闘いへの取り組みを強化し、いくつかの国や地域においては主導的な役割を果たしてきました。

救世軍は、個人、小隊(教会にあたる)、施設を通じてこの闘いを続けています。そして対策の有効性を高めるために国際的な戦略を構築しました。これは、パレルモ議定書で概説されていることへの対応に必要な要素に基づいて構築され、さらに教会固有の2つの要素を加えています。

対策は、以下に記すものです。

- 祈り** 救世軍にとって、祈りは現代奴隷制及び人身取引との闘いにおいて不可欠なものです。祈りは、複雑な状況で神の視点と導きを得る方法を人々に与えます。

祈りは、わたしたちと神との関係を保ち、わたしたちの働きに力を与えます。

- 参加** すべての小隊は、現代奴隷制及び人身取引に対する闘いにとって欠かさない存在であり、多くの小隊は、他の人々が関わることでできないような地域の人々に仕えています。被害者や被害経験者(サバイバー・生存者の意)に協力することには適切な訓練が必要ですが、すべての小隊が、地域社会における啓発活動に参加することができます。

このような虐待と搾取があることを知らせ、そこからの回復の旅の途上にある人々を愛をもって歓迎する場所を提供します。救世軍は、対応策を構築することによって、信徒、小隊、施設がこの働きに参加できるように資源を提供します。

- 予防** 認識していないものと闘うことはできません。現代奴隷制及び人身取引への注意喚起は、予防の重要な要素です。また予防には、その問題を引き起こす要因への対策に取り組むことも含みます。また、人々を脆弱にし、労働搾取や性的搾取の需要を生み出すことに対する、被害者の収入の創出、チャイルドスポンサーシップの利用や加害者への働きかけ、フェアトレードの促進、その他多くの活動を含みます。

- 保護** 救世軍は、全人的健康という考えに基づいて、被害者が身体的、精神的、感情的、社会的、霊的な健康を取り戻すための支援を追求します。被害者は、搾取の場からの保護を必要とし、被害経験者は、回復のための保護と支援を必要とします。保護には、安全に欠ける労働状況の報告や改善の勧告も含まれます。被害経験者の保護には、救出手段、安全な場所への移動、短期及び長期にわたって提供される安全な避難所と回復の機会を提供できるよう備えることも含まれるでしょう。

- 訴追** 救世軍は、しばしば警察や司法機関に緊密に協力しています。たとえば、回復訓練の場を提供し、紹介によって被害者を受け入れています。救世軍が加害者やその家族(の回復)に協力している場所もあります。

- 政策提言** 救世軍は、すべての立法者と政策立案者に対し、現代奴隷制及び人身取引と闘い、すべての人々と共に、正義をもたらすメカニズムを構築し、実施することを求めます。救世軍は、この闘いのために、政府、企業、地域の組織と協力していきます。(続く)



# 書記長官キャンペーンのアルバム



- ①長野分隊 献堂の碑
- ②長野分隊
- ③桐生小隊
- ④高崎小隊 集会前広告でのバンド演奏
- ⑤高崎小隊 タンバリン操練



## ケアハウスいずみ、清瀬小隊

### ●第二聖別会（集い）の恵み

毎週の日曜日午後1時30分から、清瀬小隊では、「ケアハウスいずみ」（以下「いずみ」と表記）の皆様への聖別会（集い）をおこなっています。「いずみ」は、特別養護老人ホーム「恵泉ホーム」に併設されている軽費老人ホームです。



新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い2020年3月には緊急事態宣言が発令され、清瀬小隊も3～5月は全ての集会を中止しました。6月7日の聖別会から対面での集会が再開となりましたが、感染予防のため集会人数の制限や、高齢者の感染予防には慎重な対応が必要でした。そこで、「恵泉ホーム」及び「いずみ」の村上真施設長のご配慮をいただき、「いずみ」の皆様との第二聖別会（集い）が始まりました。利用者の三分の二ほどの方々が集われました。ところが2021年の感染拡大で、ほとんどの集会が再び中止となりました。11月から再開し、12月5日には、25人（内21人が「いずみ」の皆様）の出席者での礼拝でした。

「いずみ」の玄関からは600歩ほどで清瀬小隊の入り口です。途中の道は四季折々の草花が咲き、「花咲く小道」と呼んでいます。近隣の方々がその花を見に来られます。「いずみ」の方々がよく手入れされ、花壇はいつも心が癒される場所となっています。「いずみ」の花壇と「ときわハウス」の花壇、

**救世軍公報**

転任

士官学校長の任を解くオーストラリアへ帰国（二月二十二日）・休養後、英国にて新任命を受ける  
ゲイル・ホワイット少佐

医療部長の任を解くオーストラリアへ帰国（二月二十二日）・休養後、英国にて新任命を受ける  
ピーター・ホワイット少佐

二〇二二年三月二十四日付

二〇二二年十二月六日発令

司令官  
ステイブ・モーリス

「恵泉ホーム」の花壇、清瀬小隊の庭を通過して、皆様が集まれる日曜日午後の集いです。

「今、『いずみ』の方々が楽しそうにお話ししながら帰って行かれましたよ」と、帰り道の楽しそうな様子が伝えられたのは、昨年11月6日、長い集会中止の後、再開して最初の集いが終わった午後のことでした。ハレルヤ。

「見よ、兄弟が共に座っている。なんとという恵み、なんとという喜び。」（詩編133・1）  
（清瀬小隊報）



創立者 ウィリアム・ブライス 大将 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>

# 士官学校

## ●江東小隊キャンペーン

11月19日(金)～21日(日)、「神の作品」(エフェソ2・10)をテーマに、江東小隊でおこなわれました。

1日目—江東小隊の「こども食堂」に参加し、集った大勢の地域の方々に食料品配布等

をしました。(56人に80食配布、奉仕者13人)  
2日目—午前は錦糸公園内の3カ所でYP野戦をしました。小隊士官マカチェン大尉夫妻が導き、吉田慎也候補生が「天地創造」の紙芝居を使ってお話をしました。多くの親子が興味をもって話を聞いていました。(1回目子ども13人、大人17人、2回目子ども13人、大人15人、3回目子ども9人、大人16人)

2日目午後は、候補生企画による「子ども会」をしました。「こども食堂」やYP野戦でお知らせした子どもたちが、大勢集まりました。候補生は、割りばしと輪ゴムを使って作るロケットの工作を導き、そのロケットを使って景品が当たるゲームをしました。子どもたちは大喜びで遊んでいました。ゲームの後、候補生は「神様の作品」であるこの世界について、自作の絵を用いてわかりやすく



- (写真)
- ①子ども食堂でお弁当を手渡す
  - ②士官学校一行
  - ③YP野戦
  - ④子ども会でのゲームの様子
  - ⑤子ども会のお話
  - ⑥聖別会での証言
  - ⑦日曜日午後、錦糸公園での野戦



ゲームの後、候補生は「神様の作品」であるこの世界について、自作の絵を用いてわかりやすく



お話しました。(子ども15人、親5人、奉仕者10人)  
3日目—最終日、朝の日曜学校には前日の子ども会に参加した子が新しい友達を連れて参加、さらにYP野戦で出会った親子の参加もありました。候補生は、楽しく賛美を導きました。(子ども8人、大人9人) 聖別会では、士官学校メンバーの賛美と吉田候補生の救いの証言があり、士官学校長ゲイル・ホワイト少佐がキャンペーンのテーマ聖句から「神の傑作」と題してメッセージをしました。(会衆34人(うち子ども6人)、恵の座6人)

午後は、錦糸公園で野戦をしました。教官・坂本恭子少佐の司会で進められ、士官学校と江東小隊有志によるプラスバンドが演奏し、吉田候補生が救いの証言を交えながら、奨励をしました。公園にいた大勢の人々が集まり、ブラスの演奏やお話を聞いていました。(1回目70人、2回目30人) 3日間、一つひとつのプログラムに神様の大きな御業を感じる、祝福されたキャンペーンとなりました。



**救世軍士官としての奉仕へ  
あなたは召されていませんか？**

**士官学校2022年度開校 『正義の擁護者』の学年**

救世軍本営 士官志願者部  
(救世軍士官学校内)  
電話 03-6256-8262

発行日及び定価  
 ▼発行日 福音版・毎月一日発行  
 広報版・奇数月十五日発行(除く七月)  
 ▼定価 福音版・一部 四〇〇円  
 広報版・一部 一〇〇円  
 クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 一〇〇円  
 振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼 救世軍  
 印刷人 代表者スティーブン・モリス  
 編集人 山谷 真  
 〒101-0051 東京都千代田区  
 神田神保町二ノ十七  
 電話 東京(03)三三七〇八八一  
 発行所 **救世軍本営**  
 印刷所 株式会社ヒーアンドエス

(取扱支部)